日本の展望委員会（第3回）議事要旨

1. 日 時：平成20年10月3日（金）17：00～18：00
 2. 場 所：日本学術会議6-C（1）会議室
 3. 出席者：金澤委員長、広渡副委員長、唐木幹事、海部幹事、大垣委員、
鈴村委員、岩澤委員、佐藤委員、柘植委員、河野委員、
猪口委員、笠木委員、武市委員、大沢委員、土居委員
（欠席：浅島委員、北島委員）
（テーマ別検討分科会）
持続可能な世界分科会 山内連絡世話人
（事務局）竹林局長、綱木次長、井上企画課長、渡辺参事官、他
 4. 議 題：1) 前回議事要旨（案）の確認
2) 各分科会からの報告
3) 今後の進め方について
4) その他
 5. 資 料：資料1 日本の展望委員会（第2回）議事要旨（案）
資料2 各分科会からの議事要旨
資料3 日本の展望委員会 今後の進め方について（改訂案）
資料4 「日本の展望」の成果物とその取り扱い（案）【海部幹事資料】
資料5 日本の展望委員会の下に設置される分野別作業分科会及びテ
ーマ別検討分科会の会議の開催について（改訂案）
参考1 委員名簿
参考2 日本の展望委員会 役員・開催日一覧
参考3 日本の展望委員会について〔総会資料〕
参考4 日本の展望委員会運営要綱資料
席上配布 日本の展望委員会人文社会作業分科会からの報告
分野別委員会における審議について【広渡副委員長資料】
 6. 議事概要
 - (1) 議題 1) 前回議事要旨（案）の確認
前回議事要旨の確認がなされ、資料1 議事要旨（案）が承認された。
 - (2) 議題 2) 各分科会からの報告
前回の日本の展望委員会（9月18日）以降に開催された5分科会の委員長、連
絡世話人等から報告があった。
- 生命科学作業分科会（唐木 英明 幹事）
〔第一回 10月2日開催〕
・生命科学作業分科会で報告書を作成するために、まず分野別委員会において

検討を行い、1月末までにレポートを提出。それをふまえ、生命科学作業分科会で取りまとめることとなった。

地球環境問題分科会（河野 長 委員）

〔第一回 9月26日開催〕

- ・ 3名の委員（環境経済、農学、国際環境法）を追加する。
- ・ 「地球環境問題分科会」と「持続可能な世界分科会」は問題の共通点があるが、「世界とアジアのなかの日本分科会」や「安全とリスク分科会」など、他のテーマ別検討分科会との関連もあるので、まずは、地球環境問題分科会として考えられる課題の検討を行う。
- ・ 各分科会の議事要旨等の情報共有、ホームページの活用の仕組みの検討が必要。

世界とアジアのなかの日本分科会（猪口 孝 委員）

〔第二回 10月2日開催〕

- ・ 検討すべき課題を各委員から文書で集めた。分科会として、どのようなトーンで執筆するかは、次回以降に検討。
- ・ 議事要旨はもちろん会議資料すべてを公開すべき。
- ・ 分科会で対象とする範囲は、東アジア～東南アジア～南アジア～中央アジアという広義のアジアである。

大学と人材分科会（笠木 伸英 委員）

〔第一回 9月25日開催〕

- ・ 少子化、大学の予算削減、大学教育の弱体化等が問題点として指摘された。
- ・ 中教審の動きなど、周辺情報を整理する必要がある。
- ・ 中長期的な高等教育の検討、アジアの中の日本の教育システム、個々の大学の多様性なども課題として提起された。今後は、フォーカスを絞って議論を行う。

社会の再生産分科会（大沢 真理 委員）

〔第一回 9月24日開催〕

- ・ 2名の委員（医療、教育学）を追加予定。
- ・ 自然災害、食糧危機、武力紛争、新型感染症等については、「持続可能な世界分科会」や「安全とリスク分科会」等、他の分科会で検討をお願いしたい。
- ・ 医療については、出産～乳幼児～高齢者医療を対象とするが、医療全体を対象とはしないこととしたい。
 - 社会の再生産には、医療の問題が検討の対象として入っている。
 - 医療のイノベーションの報告書からエッセンスを抽出するなど、学術会議の提言等をベースとして医療についても検討してほしい。

各分科会説明後の意見交換の概要は以下の通り。

- ・ 各分科会の情報の共有については、①メールに添付して、議事要旨等を送付するのは止めて欲しい。②ホームページなどに固定された情報を、必要な人が

取りに行く形が望ましい。③議事要旨は、最低、分科会毎に整理されている必要がある。

- ・情報共有については、内閣府のサーバー容量の問題等があるので引き続き検討。さしあたり、各分科会で承認された議事要旨を日本学術会議のホームページに公開。各分科会からの意見照会の仕組みとして、メールニュースで意見を求めることも検討。

- ・テーマ別検討分科会の委員の人数は、15名程度までが適当。若干名の会員又は連携会員の追加については、各分科会委員長と各部長が相談の上、幹事会に提案。

- ・過去の学術会議の提言や報告等の調査や整合性のチェックを行いながら利用できるものは利用しながら検討を行うことが必要。

(3) 議題 3) 今後の進め方について

海部幹事から資料3、資料4について、渡辺参事官から資料5について説明があった。意見交換等の概要は以下の通り。

- ・6年毎に作成する提言書については、連続性をもたせるため「日本の展望— 学術からの提言(2010)」のように年を入れる。

- ・各分野別作業分科会の報告書は、「日本の展望— ○○科学からの提言」とする。また、分量は、20ページ～数十ページとする(100ページは多い)。

- ・学術会議の議論は、総合科学技術会議よりも長いスタンスでの検討が必要

- ・長期の考え方については、10年先は予測でき20年先は予測が難しいと思われるが、各分野において、10-20年の長期展望を検討してほしい。

- ・メール等会議による議決は、分野別委員会と同様に認められるが、議事要旨の作成が必要。会議の出席手当等は支給されない。

(4) 議題 4) その他

次回の日本の展望委員会(第4回)は、各分科会の進み具合を見ながら、12月下旬～1月頃に開催する方向で日程調整を行う。